

2015年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
上釜 健宏

上釜でございます。本日は多数ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。それでは私のほうから2015年3月期通期見通しについてご説明申し上げます。

重点市場	市場動向
ICT	↗ 中国スマホは2Q調整から3Q生産回復へ
	↗ 北米スマホ好調、3Q生産ピークで4Qも前年を上回る見込み
	→ HDD市場は期初想定より下期も堅調に推移する見込み
自動車	→ 欧米メーカー中心に下期も堅調に推移する見込み
	→ 国内は上期販売台数前年割れ、下期横ばい、微増の予測
	→ xEV*は主要市場の日本や米国で販売台数の伸びが鈍化
産業機器	→ 工作機械、ロボット関係は下期も好調維持の見込み

→(矢印)は上期に対する変化イメージ
 *xEV: EV、HEV、PHEV

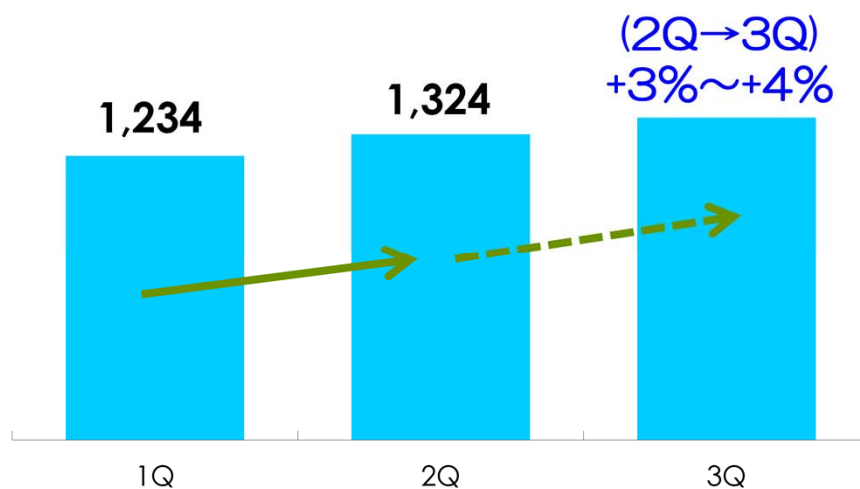
まず、下期の市場動向をご説明いたします。ICT分野は、中国スマートフォンが第一四半期は絶好調でしたが、第二四半期はその分若干調整が入りました。しかし、また第三四半期から回復してきております。また、北米スマートフォン市場も好調で、第三四半期の生産がピークになる見込みです。例年第四四半期はかなり落ち込むことが多いのですが、今期の第四四半期はそれほど落ち込まないのではないかと見込んでおります。HDD市場につきましては、期初想定より下期も堅調に推移すると見込んでおります。ニアライン市場が増えてきそうな兆しがあります。自動車市場ですが、欧米メーカー中心に下期も堅調に推移する見込みです。国内は、上期販売台数が前年割れし、下期も横ばいか微増だろうとみております。EV、HEV、PHEV等の市場については、主要市場である日本や米国で販売台数が鈍化しております。最後に産業機器市場ですが、工作機械、ロボット関係は下期も好調を維持する見込みでございます。

事業	製品	下期動向
受動部品	インダクタ	金属系（薄膜、積層）製品の販売拡大 高周波コイル（積層）の需要増
	高周波部品	ディスクリート製品の販売増加
	圧電材料部品	VCM（高画素、高特性品）の販売増加、OIS引合い増加
磁気応用	HDDヘッド	2Q→3Q数量増加
	マグネット	HDD用VCM、磁石の販売減少
	電源	EV電源の顧客需要下振れ
フィルム応用	二次電池	北米、中国向け需要は3Qがピーク 4Qも前年同期比プラスの見込み

続きまして主要製品の下期動向について簡単に説明いたします。まず受動部品ですが、インダクタの金属系の薄膜積層製品の販売が拡大してまいります。あとは積層高周波コイルの需要が増加してまいります。高周波部品につきましてはSAW、BAW等のディスクリート製品がさらに増加する見込みでございます。あとは圧電材料部品でカメラモジュールに使われるVCMの販売が増加する見込みです。特に手振れ防止用アクチュエーターのOISに対する引き合いがかなりきております。

磁気応用製品についてですが、HDDヘッドは、先程も申し上げましたが第二四半期よりも第三四半期のほうが出荷数量が増加する見込みです。マグネットは、HDD用のVCMを中心に残念ながら磁石の販売が減少する見込みです。電源は、顧客需要の下振れによりEV電源が減少する見込みです。最後に二次電池ですが、北米・中国向け需要が第三四半期にピークになるわけですが、第四四半期もそんなに落ちることなく例年よりは高い水準で推移するのではないかと見込んでおります。

受動部品

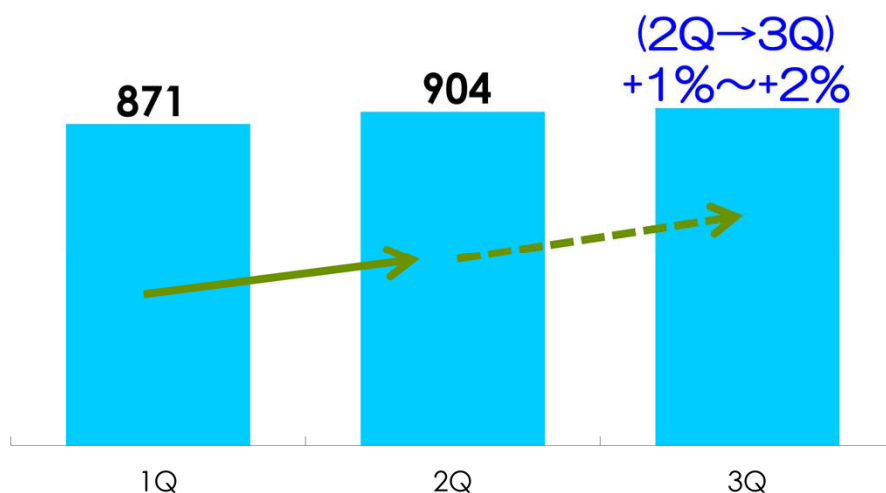


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

次に、各セグメントの第三四半期の売上見通しについてご説明いたします。受動部品、磁気応用製品、フィルム応用製品、全社の売上の変化イメージをグラフにしてみました。まず受動部品ですが、第二四半期から第三四半期にかけて売上は、3パーセントから4パーセントの伸びを見込んでおります。

磁気応用製品

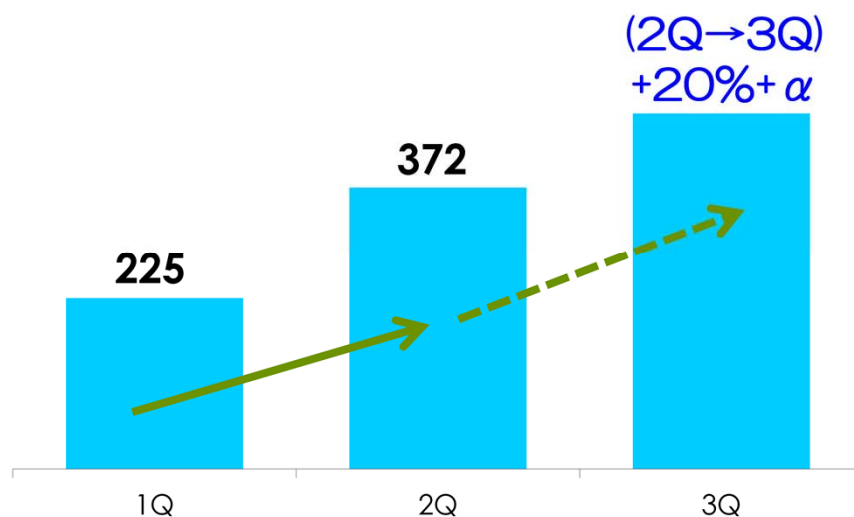


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

磁気応用製品は、HDDヘッドの数量が増えますが磁石の販売が低調ですので、1パーセントから2パーセントの増加を見ております。

フィルム応用製品

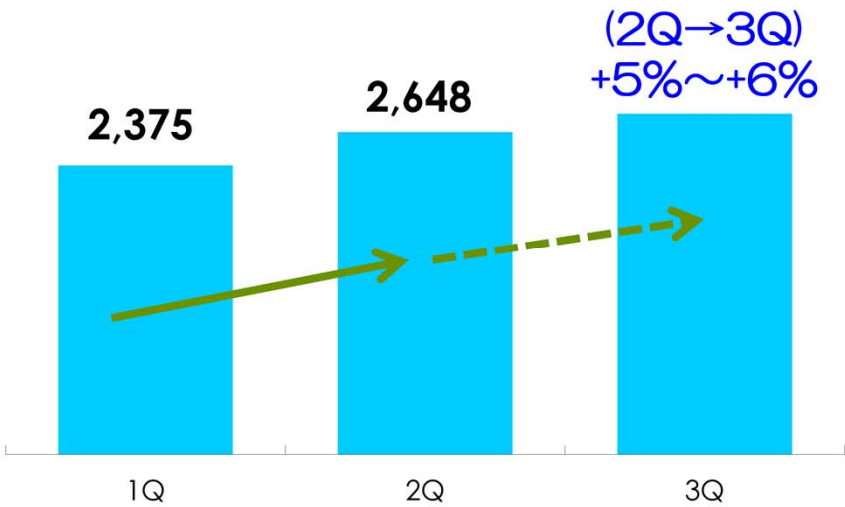


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

フィルム応用製品は、第一四半期から第二四半期にかけて、65.3%売上が増加しましたが、第三四半期はさらに20パーセント以上の伸びが期待できると見込んでおります。

全社



為替レート			
	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

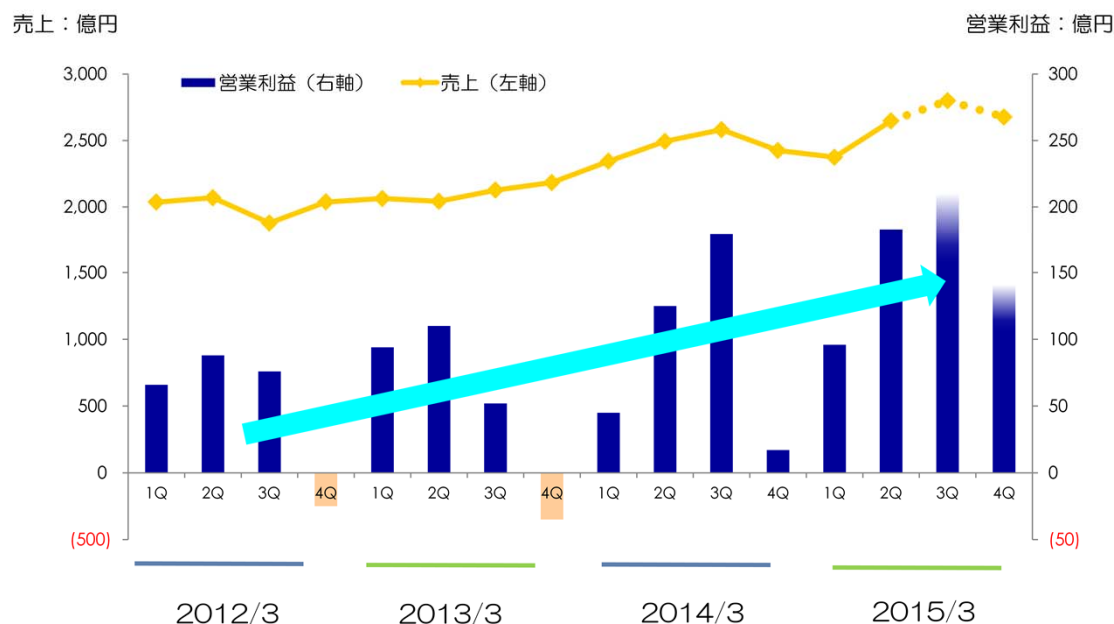
全社では、5パーセントから6パーセントの伸びを見ております。

期初公表値（4月28日）から上方修正

(億円)	2014年3月期 通期実績	2015年3月期 業績予想 (期初公表値)	2015年3月期 業績予想 (修正版)	修正業績予想対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高	9,845	10,500	10,500	655	6.7%
営業利益	366	570	630	264	72.1%
営業利益率	3.7%	5.4%	6.0%	+2.3pt	-
継続事業税引前利益	398	560	620	222	55.8%
当期純利益	163	340	370	207	127.0%
1株当たり利益(円)	129.47	270.23	293.98	-	-
配当金(円)	上期：30円 下期：40円 年間：70円	上期：40円 下期：40円 年間：80円	上期：40円 下期：40円 年間：80円	-	-
為替 対ドルレート	100円26銭	100円	下期 105円	-	-
	134円42銭	135円	下期 135円	-	-
固定資産の取得 (設備投資)	686	800	900	214	31.2%
減価償却費	829	830	830	1	0.1%
研究開発費	634	680	680	46	7.3%

最後になりますが、2015年3月期連結業績の予想および配当金の見通しについてご説明いたします。売上高1兆500億円、営業利益、前回4月28日に発表いたしました営業利益570億円に対して若干上方修正しまして630億円と見込んでおります。税前利益620億円、純利益370億円、一株あたりの利益293円98銭を見込んでおります。配当金ですが前回の発表のとおり上期40円下期40で、通期で80円を見込んでおります。為替ですが対ドルに対する下期のレートは105円、ユーロについては135円と見込んでおります。あと設備投資に関しまして、前回発表で800億と発表しましたが、今回増産投資を前倒ししてやると決定し、900億円に変更させていただいています。その他、減価償却費、これは前回公表同様830億円のなかで収めていきます。研究開発費も680億と前回発表の内容のとおりでございます。

受動部品事業を大幅に改善。
バランスの取れた利益構造で、全社の収益力を一段と強化。



最後ですが、受動部品事業を大幅に改善できたことで、事業全体としてかなりバランスのとれた利益構造が見えてきたと思っております。まだまだ収益性は改善の余地があると考えておりますが、全てのセグメントで稼げる力が出てきたと思っています。スライドのグラフは、2012年3月期からの業績推移になりますが、ご覧のとおり、従来は第四四半期に利益が落ちる傾向があったのですが、先程も申し上げました通り、今期2015年3月期は例年よりも、かなり堅くそれほど落ち込むことはないだろうと想定しております。

以上でございます。ありがとうございました。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2015/2q_1.htm